

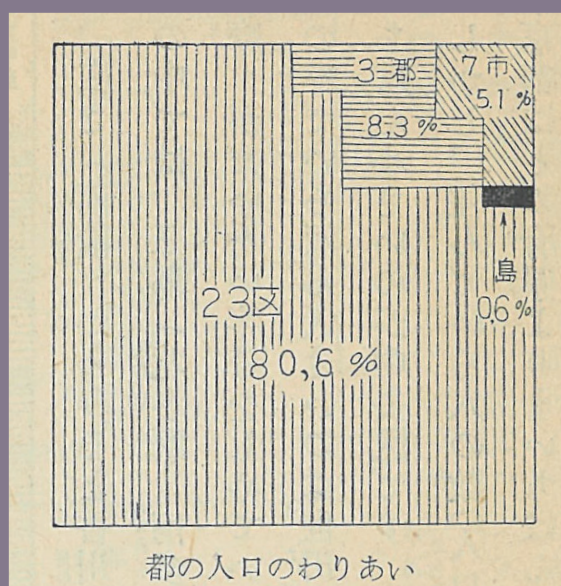
のびゆく東京

小学生の社会科教育用に作られたと思われる戦後間もない時代の副読本「のびゆく東京」をご紹介します。

東京について学びゆく

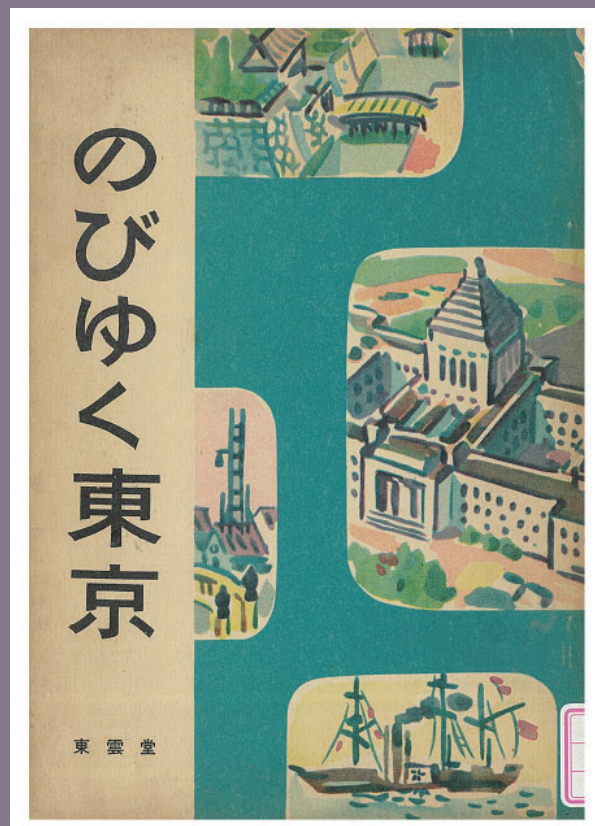
本書は、「あなたの住んでいる日本の首都東京」について、人口等の基本情報から地理、歴史、政治まで、社会科全般の内容が分かりやすくまとめられています。

戦後間もない時代の小学生向けということで、現代とは一味違う表現で、端的に東京を捉えた一冊です。



東京都全域の人口の割合を示した図

ています。「だいたい千代田区のあたり」の都心については、「丸ビルなどのビルディングがそびえ、[...]朝夕ここにかよう人たちで、たいへんなこんざつをします。」と書かれています。「隅田川の両がわにひらけているこのあたり」の下町については、「たくさんな人と、品ものとお金が、ここにあつまって[...]きれいな品ものをたくさんそろえて、人々の心をそそっています。」との記載があります。当時の下町は、中央区、台東区、江東区、墨田区のことを指します。



昭和29(1954)年発行

のびゆく人口

「のびゆく東京」という名のとおり、まずは一番伸びたであろう人口についてのページをめくってみます。昭和29(1954)年当時の東京都の人口は「どの府県よりも一番多く、およそ750万人」と現在の6割にも満たない数ですが、「戦争がおわってから急にふえ出し、毎年約40万人ぐらいずつふえて」と、大変なスピードであったことがうかがえます。

発展しゆくまち

急激に発展していく東京23区部の様子についての面白い記述がされ

